

増加傾向の褐斑病（斑点）の対策と 養分転流作用について

R3.8 アグリ技研（株）

《抑制は春芽増収への第一歩》

1. パターン①（8月の長雨等により既に発生している圃場）の対策

- (1) 薬剤は治療効果の高い剤を主に散布する（300ℓ/10a）。
- (2) 灌水量は7～10日置きにしてハウス内湿度を抑えます。
- (3) ハウス栽培では、開放して下温対策を講じます。
- (4) 多発圃場での収穫する場合にはなるべく最後に行います。
- (5) 追加立茎する場合には擬葉展開前から徹底防除と液肥の葉面散布を行います。
- (6) ビニールの汚れは雨の日に拭くことにより双方に効果が期待出来ます。
- (7) 茎葉の緑部分が少なくても光合成作用は行うのでPKゴーの葉面散布。

2. パターン②（まだまだ微発生の圃場）の対策

- (1) 薬剤は予防・治療効果の高い剤を散布する。
- (2) 灌水は収穫量に応じて徐々に控えて行きます。
- (3) ハウス栽培では、開放して極力温度を下げます。
- (4) ビニールの汚れは雨の日に拭くことにより双方に効果が期待出来ます。
- (5) 養分転流時期（休眠導入時期）にはPKゴー2000倍を3回程葉面散布。